

特別活動（ホームルーム）指導案
題材名「変化を前向きにとらえる“挑戦の姿勢”が未来をつかむ
令和7年12月10日（水） 第5・6校時（13:30～15:20） 第2学年（電子機械科）
指導者 上林 知広

I 題材の構想

1 題材観

本題材は、高等学校学習指導要領（平成30年告示）第5章 特別活動 第2〔ホームルーム活動〕2内容（3）一人一人のキャリア形成と自己実現の「（ウ）社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」に基づくものである。また、文部科学省発行『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』にある育てたい基礎的・汎用的能力のうち「自己理解・自己管理能力」の向上に注目したものである。

変化の激しい現代社会においては、予期せぬ困難に直面しても、粘り強く取り組み、失敗から学び成長していく力が求められている。しかしながら、研究協力校の生徒の多くは成果をすぐに求めがちである。そのため、成果がすぐに現れない活動に対してはモチベーションを維持できず、試行錯誤を重ねて取り組むことが苦手である。

そこで本題材では、企業で実施されているものづくりの体験的な学習活動を取り入れることで、自分自身の強みや課題を認識し、将来の進路や職業選択に活かす視点を養う。これにより生徒が自己の成長を実感し、変化に柔軟に対応しながらも自分らしいキャリアを主体的に切り拓いていく力を育てることを目指す。

生徒一人一人が、学校での学びと将来のキャリアがつながっていることを実感し、自らの可能性に気付いて前向きに進路を考えられるよう、本題材を設定した。

2 研究との関わり

研修先である株式会社ミツバは、自動車やバイクを動かすためのモーターに関わる製品を製造している企業である。多彩な教育制度が整っており、新入社員から役員まで階層別教育が用意され、役職に応じて求められるスキルの習得と向上を図っている。

4月から人事部人材開発課に所属し、イベントや視察に参加するとともに多くの研修を受けてきた。社会情勢の変化、特に自動車業界における企業戦略の転換やEV化をはじめとする技術の変化から、社会が大きく変動していることを強く感じた。これにより、企業が求める人材のニーズも社会の要請に呼応するように変化している。

こうした変化の時代においては、生徒自身が自らの強みや課題を理解する自己理解能力、目標に向けて行動を継続する自己管理能力が重要となる。さらに、変化や困難を前向きに捉え、あきらめずに挑戦し続ける姿勢を育てていくことが、これからのキャリア形成において求められている。

そこで、社会の変化に触れた経験を基に、生徒の自己理解能力・自己管理能力を高めるきっかけづくりをしていきたい。

3 題材の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
学びに向かう力、人間性等	不測の事態に対して前向きに取り組む、試行錯誤を重ねながら粘り強く挑戦し続けることができる。	不測の事態に直面すると、意欲を維持することが難しく、試行錯誤を重ねて粘り強く挑戦する姿勢が十分に見られない。

4 評価規準

主体的に学習に取り組む態度	不測の事態に対しても前向きに行動し、最後まであきらめずに挑戦し続けることができる。
---------------	---

II 本時の学習

1 ねらい インダストリアル・エンジニアリング（以下 I E）の手法を活かしたものづくりを基盤とし、イレギュラーオペレーションの経験を通して、自己の強みや課題を理解するとともに、不測の事態や例外的な状況を前向きに捉え、目標達成に向けて粘り強く挑戦し続ける姿勢を育む。

※インダストリアル・エンジニアリング＝業務改善技術

※イレギュラーオペレーション＝不測の事態や例外的な状況に対応する業務

2 展開

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕 ★ICT 活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 研修先企業・研修内容の紹介、本時の目標を確認する。（導入 10分）</p> <p>(1) 本日の学習課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【本時の学習課題】（ねらい） 企業のものづくりに“挑戦”し、どんなことにも前向きに取り組む力を身に付ける</p> </div> <p>S：「ミツバで何の仕事をしていたのか？」 S：「ミツバの製品はどこで目にするのできるのか？」</p>	<p>○研修先の企業について興味をもって聞けるように、説明する。巧緻運動を行うことで事故・ケガの予防や、これから安全第一で行うように指導する。</p>
<p>2 企業のものづくり（銅線曲げ）を体験する（展開① 25分）</p> <p>(1) 銅線曲げ説明・・・・・・・・（5分）</p> <p>①銅線曲げ実践の方法を理解する。</p> <p>S：「銅線とペンチで何をするのかな？」 S：「この線通りに曲げればいいのか？」</p> <p>(2) 銅線曲げ実践①・・・・・・・・（5分）</p> <p>①銅線曲げを行う。 ワークシートに時間を記録する。 S：「〇〇秒だった。」 S：「ここが曲げにくいね。」</p> <p>②改善の意識をする。 S：「教材、工具、銅線、準備万端！」</p> <p>(3) 銅線曲げ実践②・・・・・・・・（5分）</p> <p>①銅線曲げを行う ワークシートに時間を記録 S：「〇〇秒早くなった。」 ★実践①②の時間を銅線曲げ結果入力シートに入力する。 S：「クラス皆で〇〇秒早くなった。」 S：「お金で考えると〇〇円も得した。」</p> <p>(4) I Eを理解する・・・・・・・・（10分）</p> <p>① I Eの3ム、4定、5 S、ストライクポイントを認識する。 S：「自然に行動していた。」 S：「先生方からいつも聞くことだ。」</p>	<p>○動画と写真で実践方法を説明する。 ○安全第一を指示し、作業前には保護メガネ・皮手袋の着用を義務付ける。 ・使用材料：銅線（直径 1.6mm） ・工具：ペンチ ○理解をしていない生徒に補足をする。</p> <p>○タイム表示が分かるようにディスプレイに時間を表示する。</p> <p>●生徒から感想を引き出し、効率化や工夫を意識させる声掛けを行う。（工具・材料・教材）。</p> <p>・使用材料：銅線（直径 1.6mm） ・工具：ペンチ</p> <p>○実践①と②のデータを比較し、1歩＝1秒＝1円の考えから削減された時間をお金に置き換えてクラス全体で共有する。</p> <p>○なぜ、時間が早くなったのか？企業でのものづくり（I E・改善活動など）の説明をする。</p> <p>・3ム：ムリ・ムダ・ムラをなくす ・4定：定位置・定品・定量・定姿 ・5 S：整理・整頓・清掃・清潔・しつけ ・ストライクポイント 部品供給場所のイメージ</p>

<p>3 I Eを活用したものづくりに挑戦する (展開②30分)</p> <p>(1) クリップの試作・グループ編成 (10分)</p> <p>①クリップの説明 クリップの製作の提案を受け、工程や目的を理解する。 S:「クリップって、挟めればいいのか。」</p> <p>②市販のクリップを見本として試作のクリップを1つ製作する。 製作時間、工程や出来ばえを確認しワークシートに記入する。</p>	<p>○生徒に銅線曲げで使用した廃材で何が作れるか問いかける。</p> <p>○クリップの製作を提案する。クリップはどのような目的で作られているのか生徒に問う。</p> <p>○材料・工程・時間の管理の説明をする。 ・使用材料：銅線（直径 1.6mm） ・工具：ペンチ</p>
<p style="text-align: center;">~休憩~</p> <p>③グループ編成・役割決め 4・5人のグループを作り、クリップ製作案を検討し構想図を製作しイメージを共有する。 加工工程（切断、1次加工（曲げ）、仕上げ、検品）一人1工程の役割分担を決める。 ※5人の場合は、2次加工（曲げ）を追加。</p> <p>(2) クリップの生産・・・・・・・・ (20分)</p> <p>①グループ作業① クリップを5個製作する。 ★時間と品質をワークシートに記録して時間を「改善結果入力シート」に入力する。</p> <p>グループでI Eをもとに、改善提案を出しあい工程を検討する。 S:「この距離が無駄だから近づけよう。」 S:「この作業の時は、左手が空いているから両手を使おう。」</p> <p>②グループ作業② クリップを5個製作する。 ★時間をワークシートに記録して時間を「改善結果入力シート」に入力する。 S:「5個では、効果が少ないけど生産数が増えると大きくなる。」</p>	<p style="text-align: center;">~休憩~</p> <p>○各グループに対して、クリップの製作案について検討する機会を設け構想図として整理する。 その後、「切断」「一次加工（曲げ）」「仕上げ」「検品」の各工程について説明を行う。グループ内で話し合い、一人一人が一工程を担当するよう役割分担を決定する。役割が決まったら、各自が生産者としての意識をもつように声を掛ける。 ・使用材料：銅線（直径 1.6mm） ・工具：ペンチ</p> <p>○タイム表示が分かるようにディスプレイに時間を表示しサイクルタイムを計測するように指導する。</p> <p>○会場にあるすべて（もの、ひと）を使用して良いことを伝える。工程の廃止や工程を入れ替えなども提案する。 ・使用材料：銅線（直径 1.6mm） ・工具：ペンチ</p> <p>○グループ作業①と②の時間の差を出し100個製作した場合、1000個製作した場合を数値で表し改善活動の結果をお金で示す。</p>
<p>4 イレギュラーオペレーション (展開③15分)</p> <p>(1) 仕様変更したクリップの生産</p> <p>①グループ作業③ 「グループ作業②より時間を短縮」「材料変更」「役割交替」「工程の追加（完成品のラベル貼り付け）」の条件変更の指示を受けて相談する。 S:「どう対応する？」 クリップを5個製作する。 ★クリップを5個製作して時間をワークシートに記録して時間を「改善結果入力シート」に入力する。</p>	<p>○条件を追加することで、ストレスの場면을意図的に作る。 <追加条件> ・材料変更・時間の短縮・工程追加・役割交替</p> <p>○作業者のばらつき、NG品の混入の危険性を説明する。グループ作業②の時より時間の短縮、品質の向上を義務付ける。 完成品ラベルを配布。 ・使用材料：銅線（直径 2.0mm） ・工具：ペンチ</p>

5 本時の振り返り (終末20分)

(1) 振り返り (10分)

銅線曲げでの体験やイレギュラーオペレーションを経験することで、製作過程で感じたことを振り返りシートに記録し感じたことを伝え合う。

S : 「振り返ってみると、あの時の自分は〇〇な気持ちだった。」

S : 「人それぞれ、考え方や感じ方が違うね。」

S : 「改善は、ものづくりだけでなく私生活にも使えそう。」

(2) まとめ (10分)

テキストマイニングによる全体へのフィードバックを通じて、他者の考えや感じ方に触れながら自己の振り返りを深める。

S : 「自己実現にむけて、日々改善していきたい。」

S : 「何かあっても、この経験を活かし改善して乗り越えたい。」

○本時の中で、感じた率直な意見を振り返りシートに入力し生徒間で感じたことを伝え合うことで自分自身の対応を振り返り将来への活用を考える。

◆評価項目

- ・「不測の事態に対しても前向きに行動し、最後まであきらめずに挑戦し続ける」ために、これから意識したいこと・実践したいことを自分の言葉で書いている。

<振り返りシート (主体態)>

○入力されたデータを集約し生徒に全体にフィードバックを行う。

○一度経験した強みを生かし、今後のキャリアの中で大きな変化や問題が起きた時に“変化”というものを前向きに捉え、自分で考え自分で行動し挑戦し続け、最善を尽くすことで未来を掴むことの一歩だと伝える。

3 板書計画

別紙参照